



くりはま花の国
コスモス園

NEW WAVE

ニューウェーブ

52号
2019.11
発行

特集

神奈川なでしこブランド2019認定企業
株式会社富士防の女性パトロール隊員へインタビュー!

トピックス

JAMSTEC「海への招待状 for Girls」
イベントレポート

トピックス

海洋研究開発機構 JAMSTEC 「海への招待状 for Girls」 イベントレポート

8月2日(金)に、夏島町にある国立研究開発法人 海洋研究開発機構(JAMSTEC)で、理系分野に興味を持っている女子中高生向けに、海洋科学の魅力を知ってもらうためのイベント「海への招待状 for Girls」が開催されました。

●講演「南極で活躍する女性たち」

第60次南極地域観測隊で女性初の夏隊長を務めた、原田尚美 JAMSTEC 地球環境部門 地球表層システム研究センター長による講演では、約4か月におよぶ観測の様子を実際に撮影された迫力ある映像や写真をまじえ、お話しいただきました。

●パネルディスカッション「海の仕事、研究の魅力」

原田センター長、長島佳菜技術研究員(JAMSTEC 地球環境部門 地球表層システム研究センター)、渡邊日向さん(国立大学法人総合研究大学院大学 大学院生/第60次南極地域観測隊に同行)によるパネルディスカッションでは、パネリストの自己紹介から始まり、現在の仕事内容や研究テーマについてお話しいただきました。また、参加者からは「くじけたとき、落ち込んだ時の解消法は?」「苦手な科目をどう克服したか?」など活発に質問が出ました。

●JAMSTEC施設見学

潜水調査船整備場・無人探査機整備場・海洋科学技術館展示スペースを見学しました。

イベント参加者の感想

- JAMSTECで実際に働いている女性の話が聞けて良かった。
- パネラーの方が学生時代は理科や英語が苦手と言っていた。理科や英語ができなくても大丈夫なのだと希望が持てた。
- 今日の講演会とパネルディスカッションで南極のことを初めて知った。今まで興味がなかったが、話を聞いて面白そうだなと思った。
- 施設見学は今までも来たことがあったが、実際にJAMSTECで働いている女性の生の声を聞く機会はなかったのでとても貴重だった。
- (保護者の方)少しでも興味を持ってもらいたくて娘を誘った。生の声を聞いてもらい、いろいろなことに興味持ってもらえればと思った。

～イベントに参加して～

実際にJAMSTECで活躍している女性の声を聞くことができ、大変貴重な機会となりました。イベントに参加した女子中高生も目を輝かせて話を聞いていました。彼女たちの将来の活躍に期待!



パネルディスカッションの様子



施設見学の様子

特集

～女性目線の発想から新たな取組を実現～

『「なでしこ」現場環境パトロール』が神奈川なでしこブランド2019に認定

大規模修繕工事会社<株式会社富士防>(本社:森崎)の取組が「神奈川なでしこブランド2019」に認定されました。

認定された『住民さま目線の「なでしこ」現場環境パトロール』は、多くの居住者が生活している中で行われるマンション修繕工事の現場で、女性社員による女性目線でのパトロールにより、きめ細やかなおもてなしを提供する取組です。今回は、この立ち上げに携わった女性社員へインタビューを実施しました。



株式会社富士防の女性社員の皆さん

Q. この取組のコンセプトは?

A. 弊社は、県内を中心に関東一円でマンションやビルの大規模改修工事を営んでいます。改修工事の中で生活されているお客様から工事内容等をお聴きしたところ、「現場事務所の相談窓口がわかりづらい」「作業員詰所・資材倉庫が汚い」「工事中の廊下やエントランスに資材が置いてあり、子供や高齢者がけがをする可能性が高い」「作業員の身だしなみに清潔感がない」など、女性のお客様を中心とした多数のご意見をいただきました。

こうしたご意見を工事に反映するため、弊社の女性職員が「住民さまの気持ち・思いを素直に聞き出し」、「ご意見を書き出して」、「チェックシートを作成し」、「自らが現場に出向いて確認してみよう」という発想から2年前にスタートしました。

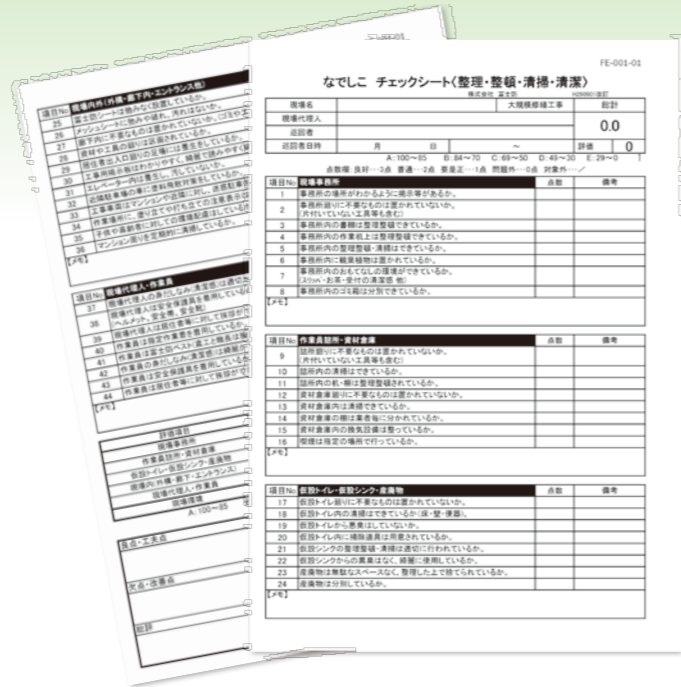


神奈川なでしこブランドとは

県内の企業や団体から、女性が開発に貢献した商品(モノ・サービス)を募集し、県が優れたものを「神奈川なでしこブランド」として認定しています。

Q 現在の取組内容は？

A. 部署を問わず女性社員がローテーションを組み、月に4~5日程度現場でのパトロールを行っています。実際に工事している現場に行き、現場事務所・作業員詰所・資材倉庫・トイレなどをチェックシートに沿ってチェックします。パトロール後、結果を現場にフィードバックし、是正した上で本社に報告を行っています。



Q 女性社員の反応は？

A. どの社員も、初めて現場に行くことに対してもちろん不安はあったと思いますが、前向きな気持ちで取り組んでくれました。実際に現場に行くことで、普段の自分の仕事をより深く理解することができるため「現場を見に行ってみよう」という声も多かったです。また、夏の時期であれば非常に暑い中作業をしていることが分かるなど、現場の大変さもより身近に感じることができました。

最初は手探り状態で、チェック項目の判断に迷う社員も多かったのですが、「お客様目線だから自分の感じたままに判断しよう」というようにして、今は厳しく評価をしてもらっています。

お客様のお役に立つことが、女性社員のやりがいにつながっています。

Q お客様の反応は？

A. このパトロールに取組む前はお客様満足度アンケートで、「現場が整理整頓されていない」などの厳しいご意見もいただいていたのですが、約2年が経過した現在、工事のクレーム等は従前より半減しており、着実に効果が現れていると思っています。

お客様から感謝の声をいただくことも増えました。例えば女性ならではの発想で、工事期間中にお客様に洗濯物が干せる日を事前にお知らせした方がよいのではと考え、洗濯予報ボードを作成し掲示(同時にwebアップ)したところ、洗濯物の多いご家庭から大変好評をいただきました。

お客様の声は、良いことは良いこととしてとらえ、悪いことや男性社員には言いづらいことを女性社員が吸い上げたいと思っています。

Q 企画立ち上げのときのお話を教えてください

A. 立ち上げは2年前ですが、その半年前くらいにこの話があがりました。

もともと工事業者はサービス業だと考えていたので、お客様ニーズをとらえ、おもてなしをしなければいけないと考えました。そこで女性社員が中心となって、住民さまひとりひとりのニーズを肌で感じて、おもてなしや安全環境意識の向上を図りたいという思いからこの企画をスタートさせました。

女性社員3~5人程度で企画の立ち上げを行いました。社員がやりたいということ、吸い上げてくれる会社なので、実行に移すまでの壁はそれほど高くなく、声をかけたら男性社員の皆さんも、協力してくれました。

Q 工夫や苦労したことは？

A. まずはフレームワークづくりに大変苦労しました。パトロールの際に使用するチェックシートを作成することからスタートしましたが、女性の目線、おもてなしの目線で何ができるかを考え、チェック項目を考えることが大変でした。それまでは現場に行くことがなく、現場のこともわからなかったため、現場の男性の方たちの声や協力もいただきながら、ようやくチェックシートを作り上げました。

また、パトロールはさまざまな部署の女性社員が行うので、チェックシートの文章は誰が見ても分かりやすく、かつ専門的にならないように工夫しました。専門的な知識がない女性社員だからこそ、お客様目線でチェックをすることができると思っています。

チェックシートは5つの柱、細かくは44項目で分け、見える化しています。チェックシートは今後も適宜改善して、さらなるサービス向上を目指したいと思っています。

社長の岡田 成煥 さんにお聞きしました

Q 女性が社会で活躍することについて

A. 建設業界は一般的に女性社員の割合が約1割と言われていますが、弊社では約3割が女性です。女性の視点加わることで、お客さま目線の改善点もさらに見つかり、女性社員が能力を存分に発揮することが、より良いサービスづくりにつながっていると思います。

弊社は産休・育児休業制度もあり、職場復帰しやすい環境が整っています。これらの制度は周囲のサポートもあり積極的に活用されています。今後もさらに職場と家庭の両立ができる職場づくりを目指します。



パトロール中の風景

~インタビューを終えて~

株式会社富士防の女性社員の皆さまは生き生きとした様子で、女性ならではの感性を活かし主体的に取り組んでいる姿が印象的でした。このような取組の輪が広がり、横須賀全体が盛り上がり、良いなと感じました。

インタビューにお答えいただいた株式会社富士防の皆さま、ありがとうございました。



インタビューにお答えいただいた
(左) 石橋 都さん (右) 宮守 志伸さん



株式会社富士防 HP
<https://www.fujibow.co.jp/>

インタビューの続きは
横須賀市 HP へ!

